

平成 21 年 4 月 10 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2006～2009

課題番号：18700657

研究課題名 (和文) 授業における学習方略の獲得過程に関する実践的研究

研究課題名 (英文) A practical study on learning process of learning strategies in lessons

研究代表者

魚崎 祐子 (UOSAKI, Yuko)

早稲田大学・人間科学学術院・講師

研究者番号：20386650

研究分野：教育工学

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学 ・ 教育工学

キーワード：学習方略の獲得、授業研究、実践研究、教師の認知、教師の関わり、学びあい

1. 研究計画の概要

本研究は授業場面を通じて、子どもたちが学習方略をどのように獲得していくのかを明らかにすることを目的としたものである。学習方略を適切に身につけることは、高い学習成果を上げることと結びついていると考えられるが、昨今、高等教育の場面においても適切な学習方略を身につけられていない学習者の存在が問題となっている。そこで、学校生活の始まりである小学校をフィールドとし、方略獲得がどのように行われているのかを明らかにしたい。

本研究では、小学校における授業を観察し、教師の教授活動および子どもたちの学習活動を記録することにより、子どもたちがどのような学習方略を持っており、それらはどのようにして身につけられているのか、学習成果とはどのように関わっているのかについて検討する。その際、教師の発話記録、板書情報、子どもたちの発話、ノートや配布物への書き込みなどを手がかりにする。また、外に現れにくい認知面についても探るために、学習方略に関する質問紙調査も併用し、認知面、行動面の双方から探っていくこととする。

さらに、教師の関わりによる影響や子ども同士の関わり合いによる影響についても探ることにより、学習方略を適切に身につけさせる環境をどのように整えていくのかといった点から教授活動の改善をはかっていきたいと考えている。

これらにより、教室の中で実際に起こっている活動の中に含まれた教授方略獲得の過程を明らかにしていくこととする。

2. 研究の進捗状況

(1)2006 年度

教師が子どもたちの学習についてどの程度的確に認知しているのかについて調べるための調査を行った。子どもたちが自らの学習の仕方に関してどのように認知しているのか調査を行うと同時に、担任教師に対しても各児童の学習の仕方についてどのように認知しているのかの調査を行った。

その結果、教師が 1 人 1 人の子どもに対する見取りに力を注いでいても、児童自身の認知とは相違の生じる項目が多く、教師の回答と児童の回答とが一致したのは約半分の項目であった。教師はこのように各児童の細かい点についての的確に捉えることの難しさを指摘し、それはクラスの始まった 4 月だけでなく、クラス形成の進んだ 7 月においても同様の傾向が見られることが明らかになった。

(2)2007 年度

学習方略に対する教師の価値観の認知や使用状況が、子どもたちに学習方略を教える上でどのように影響しているのかについて明らかにするための調査を行った。その結果、教師が重要だと考えていたり、教師自身が日頃用いている方略はそうでないものに比べ、子どもたちも重要だと捉えたり、使用していたりするということが明らかになった。また、それらの方略に関する発話は、授業内での教師の発話に多く現れることがわかった。このことから、授業を通じて教科内容とは別に学習の方法についても教師が自らの価値観を交えつつ伝えている様子が明らかになった。

(3)2008 年度

子どもたち同士の学びあいに焦点をあて、教師が学習方略を直接的に伝えるという形態以外の方法で、子どもたちが学習方略を獲得していく過程について検討した。その結果、すぐれた学び方を見つけた教師がそれを取り上げてほめたり、他の子どもたちに紹介したりすることによって、子ども同士が真似をし始め、他の子どももその方法を取り入れるというパターンが多く見られるということが明らかになった。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

フィールドとの連携のもと、多くの授業で観察を行ったり、データを収集したりする機会を得られ、授業内において教師から学習方略を獲得していく場合と、子どもたち同士で獲得していく場合という2つの側面から、子どもたちに学習方略の獲得過程に迫ってきているといえる。ただ、論文にまとめるところに至っていないという点においてはやや遅れていると考えることもでき、最終年度の課題として考えている。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度はこれまでに収集・分析してきたデータをまとめ、成果の発表に重点をおいて研究を進めていきたい。そのため、国内外の複数の学会で発表をするとともに、論文としても発表していく予定である。その上では、対象となっている教師へのインタビューなどを行い、データの補完を行うことにより、より了解可能な形で成果を示していきたいと考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計4件)

1. 魚崎祐子、児童の学習方略使用と教師の関わり、日本教育心理学会第50回総会、2008年10月13日、東京学芸大学

2. Yuko UOSAKI・Tadashi ASADA、The Cognition of Pupils and the Teacher on the Use of Learning Strategies、The Australian Association for Research in Education 2007 International Education Research Conference、2007年11月27日、The University of Notre Dame Australia, Australia

3. 魚崎祐子、授業中の発表に対する児童・

教師の認知と意見共有方法の検討、2007年9月23日、日本教育工学会第23回大会、早稲田大学

4. 魚崎祐子、学習方略の利用に関する教師と児童の認知、2007年9月17日、日本教育心理学会第49回総会、文京大学

樣式 C-7-2

自己評価報告書